

令和4年度スタート



山北町の「0歳から15歳までの一貫教育・保育」

山北町の保育・教育施設はすべて公立であるとともに1中学校区内に設置されており、長年にわたって異校種間連携・交流に取り組んできています。その成果として、園・小学校・中学校がスクラムを組み「チーム山北」となって子どもたちの成長をトータルで見とり、支えていくことができる教育・保育環境が整っています。

このメリットを生かし、「社会の中で他者とよりよく関わりながら、自分らしく生きることができる人間力と社会力」を山北町の子どもたちに育成していくことをめざして、令和4年度から

山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」イメージ図

山北町豊かな学び研究会

社会の中で 他者とよりよく関わりながら
自分らしく生きることができる人間力¹と社会力²の育成

やまきたこども研究会

山北町学びづくり研究推進委員会



山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の柱

- めざす子ども像の共有
- 山北スタンダードカリキュラムを基盤にした一貫教育・保育の推進
- 切れ目のない子育て支援体制・支援につなげる情報共有



- ① 「めざす子ども像」の共有
- ② 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進と充実
- ③ 地域とともにある「0歳から15歳までの一貫教育・保育」の推進
- ④ 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」推進体制の確立
- ⑤ PDCAサイクルに基づく評価と改善

の5点を基本方針に、0歳児から始まる保育と幼児教育、義務教育での「育ち」や「学び」を一体的に捉え、「教育」と「支援」を柱に、切れ目のない「0歳から15歳までの一貫教育・保育」を推進します。

人間力¹) 基礎的な素養を身につけ、自己実現を図っていく力・身近な人とともに適切な関係を結び、生きていく力
社会力²) 社会とかかわりを持ち、社会の一員となって役割を果たしつつ、生きていく力

「めざす子ども像」の共有

山北町「0歳から15歳までの一貫教育・保育」基本方針に示した「めざす子ども像」を、各園・学校において全教職員で共有する場を設けるとともに、「めざす子ども像」に対する各園・学校における現状や課題等を、「山北町教育研究会」等で協議・共有し、教育・保育活動に生かします。

5歳までの「めざす子ども像」

- 明るく元気で思いやりのある子
- 自分で考えて表現する子
- 自然に親しみ、地域とのふれあいを大切にする子



15歳までの「めざす子ども像」

- 意欲を持ち学びつづける子
- 人とかかわる力や思いやりのある子
- 運動に親しみ、健康で笑顔あふれる子
- 自らすすんで自己表現できる子
- 国際感覚とともに郷土に愛着をもつ子

一貫した「学び」と「育ち」のために

- 「山北スタンダードカリキュラム」を踏まえた指導
 - すべての園・学校で、「山北スタンダードカリキュラム」(子どもたちの「学びに向かう力や姿勢」の基盤となる「非認知能力³⁾」の育成に着目し、「コミュニケーション能力」と「運動に親しむ資質・能力」の2つの観点から作成)を踏まえた指導方法の工夫や授業づくりを進めます。
- 幼児期から児童期への滑らかな接続のためのカリキュラム編成
 - 園では入学に向けた「アプローチカリキュラム」を、小学校では幼児教育を生かした「スタートカリキュラム」を編成し、滑らかな接続に取り組みます。
- 異校種間交流の推進
 - 一貫教育・保育の視点を盛り込んだ子どもたちの交流・教職員の授業参観・交流等を積極的に進めます。
- 外国語(英語)をとおした滑らかな異校種間接続
 - 各園での小・中学校の外国人講師(ALT)による国際理解教育、小・中学校の英語科担当教員・ALTの異校種間授業を、より一層充実させていきます。
- 郷土愛の育成
 - 園では「山北にふれる」、小学校では「山北を知る・山北を学ぶ」、中学校では「山北に学ぶ・山北に広げる」をテーマに、豊かな自然や歴史遺産にも数多く恵まれた山北町の環境を生かし、それを享受する十分な学びを整える取り組みを進めます。

★読書活動・人権教育・GIGAスクール構想・食育などでも、それぞれ一貫教育・保育を推進します。
非認知能力³⁾ 読み書き・計算などの数値では測れない能力をさす。目標や意欲、興味・関心をもち、粘り強く、仲間と協調して取り組む力や姿勢等

切れ目のない支援体制のために

- 「教育・保育」「子育て支援」を一貫する組織体制
 - 教育委員会(学校教育課)と福祉課(子ども支援班)間を組織改編した「こども教育課」を令和4年度に教育委員会に設置し、各種行政機関、関係機関との連携強化の一元化を図り、適切な支援や援助等を行いながら一貫教育・保育を進めていきます。
- 園・学校・教育委員会・関連機関の連携
 - 町主催連絡会や心理士による巡回相談、関係機関等との連携、各園・学校間などでの情報共有や意見交換、卒園・卒業後の進学先での子どもたちの様子も含めての各発達段階の子ども理解と指導についての情報共有を行い、切れ目のない支援体制・支援につなげます。
 - 放課後児童クラブ・放課後子ども教室との連携協力体制の強化を図ります。
- 支援の必要な子どもへの支援体制
 - 「ともに学び、ともに育つ」環境を保障し、個性や特性、能力に適した切れ目のない指導・支援の継続を行います。
 - インクルーシブ教育における、支援を必要とする一人ひとりの子どものニーズに応じたきめ細かな指導と支援体制の整備を進めます。
 - 接続期では、各園・各学校間で情報交換を密に行い、介助員や教育相談コーディネーター、心理士等とも連携して個別の支援計画を作成し、支援シートの共有等を行います。

地域とともにある「一貫教育・保育」のために

- コミュニティ・スクールの拡充
 - 本町では、令和元年度に小・中学校に学校運営協議会を設置しコミュニティ・スクールとしました。令和4年度から始まる「0歳から15歳までの教育・保育」に向けて、幼稚園・保育園・こども園もコミュニティ・スクール化し、地域と協働した教育活動がよりよく展開できるようにしていきます。
- 地域全体で子どもを支える「チーム山北」体制づくり
 - 園・学校と地域がパートナーとなって子どもたちの学びや成長を支えていくために、登下校の見守り、花壇や園・学校周辺環境の整備、本の読み聞かせ、教育・保育活動の補助や支援、学びのプログラムの提供など、地域住民が積極的に参画・協力しやすい体制づくりを進めます。
- 県立山北高等学校生徒との交流
 - 山北高等学校で行われている地域学習成果の還元、授業・保育参観やインターンシップの受け入れ、子どもたちとの交流の場を計画的に設けます。
 - 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」に加えて「山北高等学校のスクール・ミッション」に基づき、高等学校卒業時までを合わせた連携教育をめざした取り組みを進めます。

山北スタンダードカリキュラム

中学校教育

◎社会的表現力の育成

小学校教育

◎対話力の育成

幼児教育

◎人と積極的に関わる力の育成

乳児保育

◎愛着関係の形成

●非認知能力の育成

【受け取る力】
 ・応答的なかわり
 ・話し手の目を見る
 ・安心できる人が傍にいる

【伝える力】
 ・思いをしぐさや言葉で表す
 ・あいさつや返事をする

【運動】
 ・探索活動を楽しむ
 ・繰り返し試して遊ぶ

●非認知能力の育成

【受け取る力】
 ・話し手の目を見る
 ・反応する
 ・最後まで聞く

【伝える力】
 ・あいさつや返事をする
 ・遊びの中で知っている言葉を使い、自分の気持ちを伝える
 ・困ったことを伝える

【運動】
 ・体を動かして遊ぶ
 ・外に出ること、外で遊ぶことを楽しむ

●非認知能力育成の継続、主体的に学ぶ力の育成

【受け取る力】
 ・相手の話を共感的に最後まで聞く
 ・自分の考えと比べながら聞く
 ・相手の考えや意図を理解しようとして聞く

【伝える力】
 ・自分の立場を明確にし、根拠や理由をつけながら発言する
 ・相手に伝わりやすいように話す
 ・友達と考えをつなげて話す

【運動】
 ・多様な運動に進んで取り組む
 ・目標をもって継続して運動する
 ・苦手なことにも挑戦し続ける
 ・みんなで楽しむ雰囲気を作ること

●育まれてきた非認知能力を、社会で生かす思考力・判断力・表現力の育成

【受け取る力】
 ・相手の考えと比較しながら聞き、自分の考えをまとめる
 ・聞き取った内容や表現の仕方を評価して、自分の考えを広げたり深めたりする

【伝える力】
 ・根拠をもとに自分の立場を明確にし、相手が理解納得できるように論理の展開を考えて説明する
 ・場の状況に応じて言葉や表現を工夫し、分かりやすく伝える
 ・合意形成に向け、互いの発言を生かしながら話し合う

【運動】
 ・生涯学習の視点にたち、運動やスポーツに親しむ
 ・継続的な運動やスポーツをとおして、心身の健康を維持する
 ・運動やスポーツでの交流をとおして、地域社会の一員として貢献する

人権感覚・人権意識の涵養

社会の中で、他者によりよく関わりながら自分らしく生きる山北の子ども